

風俳

柳多留

二編

1147
2



門 へ 9 特
番 1147
卷 2



江都煎白

判者川楸

板書

并景物歌仙入

誹風

家内喜多留

二篇

高井の加勢一乳母乃所子つて
いふがふふ里の井に水とるを
いへ修せとらふが蛇のらうな
はく田くも二人がくくく掛
り入ゆ〜
善政の瘠はくくくく
通いよの茶とくくく
伏部屋へ売がゆとが〜

し〜
す〜
ぬ〜
ふ〜
高田川にゆのく〜
ふ〜

茶屋の塚、そを祀るとのこころ
なむ——ハセテす百あつか
下かの敷、二に交えてヤシと花に
すし、しんそと、入を、く、く、書とせ、
あ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
思、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
日、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

—系ハ大塚、一、地人、一、
かん、かん、かん、かん、かん、かん、かん、かん、かん、
あ、か、お、し、の、の、の、の、の、の、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

うゝゝゝにやうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
去國妻のしむ四目つゝゝゝゝゝゝ
赤このやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
屁のつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
去年紀えゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
草の布かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
茶の汁のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
雑ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
男のちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
尻ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
カゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
。も人者小媛ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
二代目ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
からゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

多し入し世の多しはくちか
まりの地をいねるふらげん
んせがしよんをカオツてん
海もちよとたつて人々の
ぢつゆのまへ人々のちゆく
はれんのかいと役人とちいふは
ちいりん文字が方々しきり
としるすすのちのちよん
は斗橋のちよりの地くと編む
里帰を園へ杖とくちゆらけ
子とゆらけた上ちよん
ちよんちよんてんちよん
おれとちよんてんちよん
下村とちよんてんちよん
大沖とちよんてんちよん
合塚とちよんてんちよん

海の子の親はまがねく礼と
たゞの親のわきまをする 毛 扇
おごころとくち振袖にまじり
るるるのまゝの車にまじり
りまじりまじりまじりまじり
こみかんはくしはくくも糸をす
百もねしはくしはくくも糸をす
念仏鑑すまふまふまふまふ

新理人場ふあつちまじり
娘のけいふえんまじりまじり
まじりまじりまじりまじり
くちまじりまじりまじり
河也まじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじり
けいふまじりまじりまじり
のゆまじりまじりまじり

去る高きうらむし〜
す〜
はち〜
口〜
ど〜
え〜
と娘留の歌〜
む思〜

〜
店ら〜
家〜
〜
大〜
隅田〜
〜
〜
〜

家らぶらひの終り書、所々をせとお
のびの出るは感、小糸の海一ら
能くは、病中、母房、ついでして出
布さ、淡の入り、よと、あつた、
もの名を、ス、り、し、に、あ、ち、ら、と、し、
と、食、能、か、之、所、つ、か、し、
か、い、や、り、か、つ、ら、と、や、ち、
五、六、の、何、と、な、り、し、に、あ、ち、ら、

ふ、よ、ま、ん、か、ち、母、房、の、手、と、な、り、
母、房、小、せ、づ、ゆ、れ、と、あ、ち、ら、
居、つ、て、中、に、或、寸、切、り、さ、り、つ、て、
持、つ、と、き、と、や、り、く、と、あ、ち、ら、
む、ゆ、ん、し、に、あ、ち、ら、し、に、あ、ち、ら、
あ、ち、ら、あ、ち、ら、し、に、あ、ち、ら、
あ、ち、ら、あ、ち、ら、の、あ、ち、ら、
子、の、あ、ち、ら、あ、ち、ら、の、あ、ち、ら、

其のすゝめたるは、
お毒と云ふは、
狐つと云ふは、
落武者、
がら、
と云ふは、
中、

孝れ、
小、
梅、
宗、
若、
は、
中、
山、

おしひの事と申にさくらさくら
かきとねいひのしんじつ
本音とていふ事と申にさくらさくら
かきとねいひのしんじつ
自音とていふ事と申にさくらさくら
かきとねいひのしんじつ
上りつゝのしんじつと申にさくらさくら
かきとねいひのしんじつ
おしひの事と申にさくらさくら
かきとねいひのしんじつ

おしひの事と申にさくらさくら
かきとねいひのしんじつ
本音とていふ事と申にさくらさくら
かきとねいひのしんじつ
自音とていふ事と申にさくらさくら
かきとねいひのしんじつ
上りつゝのしんじつと申にさくらさくら
かきとねいひのしんじつ
おしひの事と申にさくらさくら
かきとねいひのしんじつ

あつち換ふにきよくしやく
をいらりし書可きおかんで居
たしむるにわくの申てさすい縁
多しゆかふお台くしゆけそ居
母次ハ居つて本ともかこつたけ
る下の師く人しむくは海日
無言ハゆびの女の首とて
かしぐはくしむらうしゆけそ

母次ハ居つて本ともかこつたけ
る下の師く人しむくは海日
無言ハゆびの女の首とて
かしぐはくしむらうしゆけそ
あつち換ふにきよくしやく
をいらりし書可きおかんで居
たしむるにわくの申てさすい縁
多しゆかふお台くしゆけそ居
母次ハ居つて本ともかこつたけ
る下の師く人しむくは海日
無言ハゆびの女の首とて
かしぐはくしむらうしゆけそ

茶の店雖もお世に成りて
くゞぐいさきよと云ふと
漳の施さぬお所なきと音とこ
とこ更せのお茶ハ一人の海と
くろくろくさんまの
色し者といふと
角力ぬき廿房一お減
波人の白のくろくろく
後かき

くらぶの
くらぶの
中
何せ
大の
娘の
お侍
月

ふくろをくちんぐくくくくく
ぬいまくろのびとくくくくく
こまらりのあこ小町と十口
小坂と盗人とまきく 西の舟
をせよとすりまはれ 馬くくく
石巻のあこ同と屋と縁がき
月の夜くあひるく月と海と
やぐん海とぐねまかくくく

くすくすのくくくくくくく
そくいのらくくくくくく
て大と海と中 ぬくく
あこ世くくくくくく 施と中
ゆじくくくく 湯水の桶とく
あひの寺と小坂とくくくく
中若くくくくくくくくく
あしとくくくくくくくく

角を糸柳よぢんくしを既ふ毛とくち
がふつしこち十たのしななくく
紙籠く角カとせらるのちのま
をあすと切のちと姑くちとく
所しふと捨うかのほく
ぬおくくくくくくくくく
ふ判ちくくのりくか海もたか
心よくまかかかかかかか

おのまにまかくくくくくく
を業よとらぢくのりく半と存
ぼくくくく酒田を捨くかくく
ちちしと中ちはくくくくく
すくくくくくくくくくく
ににだくのりくくくくくく
くくくくくくくくくくく
人代にさくくくくくくく

神樂堂焼と遊すのりのりのり
とくたむハ屋や々々
あなんちやうて家いえじやうのり女に房ぶどらのり
茶ちのり甘あ目め初はつまず流ながるるとららくく
女に湯ゆとあびさうてふふのり
之このり人ひと屋やのりさすららとらいれるる
あらじやうのり荒あるるとらいれるる
おの家いえのりあらじやうのり

杭大の坊ば々々とらいれるる
くくのり女に屋やのりどく焼や々々
ちちのり内うちのりちちのりいいとらいれるる
木き茶ち屋やのりちちのりいいとらいれるる
くくのり流ながるるとらいれるる
母ははのり名なのり現げんにのいいてらいれるる
いいのり流ながるるとらいれるる
あらじやうのり焼や々々とらいれるる

遊入りしうらさきもみぢな海日記
之味も入居ぢうの事やら印記でく
仲糸はうづらゆらゆらとせうら
濱子さしめれど甘房とらぎの
舌糸はうら福されらうと七
葉にやまきしやうとさしひ
のりやうぢぢぢぢの汁とら
葉とらぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

花うらうらうらうの便り
な、もせぬ目とむらやう
車るぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
亦且とやう二でぢぢぢぢ
桶とせ、えまのしんぢとら
そ人うらやうらにぢぢ
過らうらうらうらうら
はらうらうらうらうら

牛かしのちきりちきりちきり
所村とくじんふんぶくの夜
料理人取し廿日娘と
やう〜〜〜
兄才の夜うち紙性同よけ
素人合とつち〜〜
〜〜〜
〜〜〜

古馬ろん〜〜
〜〜〜
〜〜〜
川張りも〜〜
男坂を〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜

おまがしにのま〜く 割とまひ
切にがにおせり〜使のしつ〜
つ出入こ人扱お〜 泣痛入
し〜觸房〜 毒味さげ〜
平家方皆母〜てさ〜とが
忠の色〜か〜と〜て
〜人〜と〜け〜を法〜
〜サ〜で〜の方〜お役〜

お房り死〜ま〜あ〜
地獄〜と〜ん〜あも〜
里のり〜お房の井戸〜
笑あ〜の〜
様〜
〜
〜
〜
〜

改めしむるに
流乳しつて
流りかき
あつたのまゝ
らんぞ乳母
流りと淋
口きくす
おふがえ
改めしむるに
流乳しつて
流りかき
あつたのまゝ
らんぞ乳母
流りと淋
口きくす
おふがえ

流乳しつて
流りかき
あつたのまゝ
らんぞ乳母
流りと淋
口きくす
おふがえ
改めしむるに
流乳しつて
流りかき
あつたのまゝ
らんぞ乳母
流りと淋
口きくす
おふがえ

つゞきーーと云々と云々と
廿房、鹿神と云々
事、川、かぢがく、
か、く、か、く、
ふ、く、く、く、
古、く、く、く、
ゆ、く、く、く、
ト、廿、の、か、か、

切張も、く、く、
ち、ら、が、か、
ア、ー、房、お、く、
あ、く、く、く、
初、か、の、く、
り、は、白、髪、を、
白、柏、子、く、
や、せ、き、の、

たしひらりー約清堂ーのしとち
しとちしとちしとちしとちしとち
しとちしとちの社ーららーくーしとち
しとちしとちしとちしとちしとち
田記の節定るーさうおーしとち
らーしとち田舎ーしとちしとちしとち
くーしとち娘ーしとちしとちしとち
しとちしとちしとちしとちしとち
しとちしとちしとちしとちしとち

あしとちしとちしとちしとちしとち
お局二日のしとちしとちしとちしとち
以神馬ーしとちしとちしとちしとち
方丈ハ雑意ーしとちしとちしとちしとち
行是ハに十部可ーのしとちしとちしとち
しとちしとち令割村たーしとちしとちしとち
大丸ーしとちしとちしとちしとちしとち
おしとちしとちしとちしとちしとち

南カ場一まはりの男はらばら
張也一急心の如き味とわ
文壇から見たかんがいのらで知
る格へあろし売の射一か
あぞとあつきい内いふるもこ
ちあつしり門ごらる比集賣
志の心人過かろし一門
所下りたよもあつし

あつしひいあつしあつし一
らつしのかつしあつし一
那之人あつしのあつしあつし
かつしあつし一あつし
あつし一だつしあつし
あつしのあつし一あつし
あつしとあつし一あつし
松門あつし一あつし

親の口より聞かすにわが世は
 けりしと聞かすにわが世は
 流雲し流雲し流雲し流雲し
 きーどくしにわが世は
 目約の事候と聞かすにわが世は
 大そくしと聞かすにわが世は
 てしと聞かすにわが世は
 おるしと聞かすにわが世は

うさしと聞かすにわが世は
 乳母の口より聞かすにわが世は
 そ外に聞かすにわが世は
 強き者あるにわが世は
 けりしと聞かすにわが世は
 けりしと聞かすにわが世は
 けりしと聞かすにわが世は
 けりしと聞かすにわが世は
 けりしと聞かすにわが世は

の
あ
ほ
を
腕
山
キ
今

し
奈
祝
今
中
拿
は
台

又代のすぬねら〜
病人、病無のニと使して上は
手と平好しく〜
改えの目と行なと店、ゆれ
〜
のの〜
中

髪と法〜
ちのの〜
の〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜

